



114
A2269



抄 業費出細条候ノ多起ラテ存フルニ付ソ
 業ヲ息スニ當リテハ息業費ヲ要求シ聞
 業ノ際貸本ノ利率ヲ定メ而シテ亦所
 ノ收入金ヲ以テ息業費本ニ償還シ刻
 解ノ金額ヲ益金トシ之ヲ息業費及ヒ
 業業費本ノ額補填ノ候。亦ニ充テ
 其債金完了ノ後、至リテモ純益金
 ハ給テ本者ト納付スルヲ以テ一ノ解費ヲ
 蓄在スル一能ハス然ルニ家屋及挿械ノ
 如キハ自ラ保存ノ年限アリ候ニ其額ニ南
 リテハ修繕ヲ加ヘサルヘカラス況ンテ工業業ノ
 便否：指テ更ニ新挿械ヲ購入シ又ハ家屋ノ

天正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



増業ヲ要セサルヲ得ヌ此時ニ當リ當ヒ一
増業ヲ要セサルハ更ニ資本ヲ請求スルニ至リ仮
令裁可ヲ得ルモ又一ノ新規興業費ヲ
増強スルカ如ク其償還ヲ要シ工業を歩
強強ノ多越ニ遠セス格多ク志ヲシテ迷
後顧ノ念ヲ有シ其負担スル不ヲ知ラス
仰テ命ヲ候ワモノ、如クナラシムハ何ニ因
テカ工業ノ増強ヲ祈セシヤ良介思ヘテク
業ヲ担スモノ任スル所アレハ責ん所アリ責ん
所アレハ其負担ノ志念ヲ固フスルヲ得
ヘニ技術者ヲ養成スルハ整理者ノ多ク務
ラニ無程スルモノト回シテラス偏ニ誘導ノ如
何ニアルノミ蓋シ誘導ノ為タニ何ツヤ年

少ノモノハ其俸給ヲ得クシ以テ其勉勵ヲ
得キ年々其ノモノハ其技能ニ遠スル俸給
ヲ與ヘ其志ヲ維持シ或ハ以テ之ヲ禱ヒ其
怠慢ヲ戒メ或ハ其業ノ進歩ヲ見サレモノ
ハ依然トシテ之ヲ進セズ技術非凡ニ暢
達スルモノハ非常ノ増給ヲ与ヘ非常ノ
優差ヲ授出スルモノハ特例ノ優差ヲ与ヘ
各多クシテ富貴競進スル所アラシムヘシ
夫レ工師ニ格多クスルモノハ常ニ坊中ノ度
獲得者ト機械お取ノ者ト前途ノ目的
トヲ極意計較スルノ志念ハ其業ノ其器
彈索ヲ極意スルモノ、如シ病ニ工師ニシテ
為ニ操縦者ノ法ヲ設クレハ格多ク者ヲシテ

其志望ヲ工場ニ寄クスル一ヲ作セシメ其
以依リ、夜病有傷ノ者モ救身シ羅員
死葬モ救恤ノ典ヲ行フヲ作テ他ニ欲意
乏所ナク自ラ有控、精神ヲ自記シ者亦
分ノ事、一ヲ多ハテ意、勉勵スル所アルベシ
隨テ家庭操縦ある、管及及授受ヲ嚴
明ニシ簿記確實、收支明瞭、簿ヲ整理
志ラシテ習ラ其務ハ而、幹旋シ其、良吉
成效ヲ求テトシテ又、一ニ其、業ノ振興ニ
ルヤ、毫毛ヲ於テ一カラス、且、尙、尙、作業ニ
於ケル、紙、墨、未、夕、筆、ヲ、且、其、業、費、未、夕、定
價、之、能、ハ、ス、ン、ハ、作、業、未、夕、何、ニ、依、リ、テ、経、費
ヲ、仰、ク、一、ニ、ト、雜、モ、次、、與、其、業、費、ノ、價、之、亦、ヲ

完了シ尙毎業純益ノ利潤アルニ付テハ是
迄ノ如ク資本運轉ノ筆、額ヲ振、至、年、一、
本、者、収、納、ノ、額、ヲ、豫、定、シ、其、剩、餘、ハ、各、件、
ノ、如、ク、尙、尙、ノ、為、ニ、標、紙、業、ト、シ、後、費、ノ、支、出
ヲ、要、ス、ル、ニ、尙、リ、テ、ハ、經、回、ノ、上、之、ヲ、施、示、ス、ル、モ
ノ、ト、セ、ハ、於、多、ノ、者、ノ、精、神、皆、此、ニ、集、合、シ
蓋、其、精、神、亦、一、切、切、ナル、ハ、必、然、ノ、勢、ニ、シ、テ、作
業、ノ、利、益、益、率、ヲ、サ、ル、ヲ、能、ス、ル、モ、豈、又、何、ヘ、ケ
ン、ヤ、況、ン、ヤ、紙、幣、造、幣、ノ、事、一、タ、ン、人、民
保、安、ノ、精、神、ニ、出、テ、其、ノ、受、係、ス、ル、所、を、大
ニ、シ、テ、一、般、ノ、作、業、ト、シ、テ、回、ラ、シ、テ、論、エ、ハ、カ、ラ、ス
故、ニ、其、之、ニ、於、多、ノ、者、ニ、尙、リ、テ、ヤ、一、般、ノ、能
ク、ス、ル、亦、ニ、ア、ラ、ス、心、ス、亦、故、亦、ラ、シ、テ、各、自、非

常ノ折任ヲ當ルニ要サレタルニテ是ニ
於テ明治七年工場ノ定立ヲ制定シ後
事一夫志慢ノ弊ヲ豫防シ獎勵ノ途ヲ
開キ終身主任ノ誓約ヲ立他ニ欲意スル
不ナク各自存分ノ技術ニ勉勵セシメ而
シテ毎部其折當ラズニシテ中又各料
室ヲ区分シ互ニ交通スルヲ禁ム蓋シ一ハ
別々ニ爲ルヲ秘密ニシ以テ製造ノ弊ヲ
防キ一ハ各科室ノ會計ヲ明瞭ニシ換
算各其責ニ任シ科室中又互法ヲ
習ケ身ニ其善ヲ勉メ其非ヲ正シ以テ福
立自善ノ精神ヲ勉メ非獎勵スル所
以ナリ是レ尙局ニ付組織ノ至義ニシ

テ於テ其料不ノ事業ニ於テハ各其料
ヲ算メスト雖モ各負テ方一ニシ其本
分ノ業ニ當ル知勵以テ防弊ノ精神ヲ
完備セシムルニ義ニ出ツ蓋シ工場ヲ監視スル
中其性質ノ如何ト換算ノ如何ト察知
精神ノ如何ト價格尙古ノ如何ト事業志
ヲ比較スルノ法如何トヲ視ンニテ其レテ
於テ其然情ノ實ニテ其弊亦ノ精巧
ヲ出シ價格ノ廉ニシテ純益ノ算ルルハ
於テ其心志ヲ安シ様様ニ其精良ヲ其
技術ヲ其細ヲ語ラス其理者其法紀
ヲ其亂セス其亦ノ其意ヲ其法紀
ヲ其尙ニ其純益ノ其不アルニテ可

丁ルヘレ依ル子孫ノ件ハ、作業者各係ノ福
ク義ヲモクシ、忍性ト云ハ、水ヲ在、物アリ、以
テ裁可キ事、在ル以上、法ヲ為、度ヲ第、四、項
以下ノ条件ハ、其、案、ノ一月中、其、何、ニ、在、
義、ノ、事、ヲ、未、夕、何、等、ノ、以、指、令、等、シ、
係、ノ、事、由、也、
明治十四年二月五日、印刷局長、水、野、良、作

大森下佐野常氏殿

一 作業費出納條例第四條ニ 作業費及收入額ト
モ前途一周歳ノ豫算ヲ確定シ之ニ基キ實際
施行ス、キ云々

當局製造事業ハ諸紙幣公債證書ヲ始メ其
他瑣末ノ品類ニ至ル迄悉テ官命民頼ヨリ
生出スル義ニテ素ヨリ不定ノ製品ニ付前
途一周歳ノ豫算ヲ確定シ難シ譬ハ印刷機
械ノ如キ一日ノ印刷高幾許ナルヤハ其實
驗ニ因リ算シ得ヘシト雖他ノ注文無之時
日ニ於テハ其効用ヲ施ス、能ハス故ニ現
時官命民頼ノアル所ニ就キ暫ク豫算ヲ立
ルヲ以テ古豫算ニ基キ一歳間ノ經營相謀

リ難ク候間古ノ次第御聽許相成度候

一同上第五條ニ興業費ハ一旦拂切精算ヲ立營業益金ヲ以漸次償却スヘキ云々

當局工場創始已來消費セシ興業費ノ總額ハ既ニ營業上ヨリ生スル所ノ純益金ヲ以悉皆償却ヲ完了セリ然レ共此家屋機械現ニ存在スルヲ以當局ニ於テハ永ク工場ノ資産費ト見做シ各從事者ヲシテ該費消却ノ任ヲ分擔セシム故ニ各員負荷ノ重キヲ知リ益純益ノ増加ヲ勉ムルニ至ル故ニ當局ニ於テハ是迄ノ通取計申度候

一同上第七條ニ凡ソ作業上ノ收入ハ營業資本へ償還シ剩ル負額ヲ益金トシ以テ損益ヲ計

較ス而シテ益金ハ曩ニ消費スル興業費及營業資本闕額補填ノ分償却ニ充ツヘキ云々

當局ニ於テハ前頭ノ通興業費ノ償却ハ既ニ完了シ本條ノ範圍ヲ脱出スルヲ以自今試ニ五箇年間當局營業上ヨリ生スル純益金ノ内三萬圓宛年々本省へ納メ其餘贏ノ金額ハ工場操越金トシテ翌年度へ操越之ヲ國債局ニ托シ相當ノ利子ヲ以銀行ニ預ケ置其都度経伺ノ上工場ノ増築修繕機械ノ購入修補及各員賞與撫恤等ノ用ニ供シ若シ純益金額三萬圓未滿ノ年ニ於テハ前頭操越金ノ内ヲ以其不足ヲ補ヒ之レヲ上納シ然シテ其辻拂ハ營業資本請拂報告

へ編入シ成規ニ依テ上呈セハ全局ノ諸負
後顧ノ念ナク俛焉事ニ從ヒ工場ノ隆盛期
シテ俟ツヘキナリ故ニ客歲九月建議ノ通
御聽許相成度候

一本局判任官以下ノ儀然テ工場役員同様日給
御雇ニ相改庶務計算調度ノ三課ヲ改メ庶務
審査調度ノ三部トシ庶務部ハ從前庶務課取
扱ノ事務ヲ負擔為致審査部ハ從前計算課取
扱ノ事務及調度課中審査掛ノ事務ヲ負擔為
致調度部ハ從前調度課中貯蓄部及營繕掛ノ
事務ヲ負擔為致申度候

一本局養任官ヲ始局中人員ノ給料ハ勿論諸經
費共總テ營業費ヲ以支辨可致候

一前頭ノ通判任官以下總テ日給御雇ニ相改候
ニ付テハ前官奉職中ノ滿年賜金ハ本年度定
額金ノ内ヨリ支出致シ殘餘ノ金額ハ返納可
致候

一豫テ伺濟營業資本運轉金拾八萬圓ハ是迄ノ
通御据置相成度候

一局中人員賞與手當並外國人接待費等ノ儀ハ
例年ノ比較ニ準シ斟酌賜給取計申度候

一役員以下職工ニ至ル迄就業中負傷等ノ者療
養中日給半額ツ、被下方ノ儀ハ日數三十日
ヲ限リ給與致シ右日限以後猶全癒不致者ハ
其都度経伺、上取計候得共負傷者取扱方ノ
儀ハ療養中時々營局醫員出張病状檢診為致

候 = 付濫賜ノ弊害ハ決シテ無之殊 = 今般繁
ヲ省キ簡ニ就クノ御趣意モ有之上ハ療養中
日數ニ不拘給與ノ儀御委任相成度候

致候

一 役員新規採用并放免及給料増減ノ事

一 外國人雇入并雇繼又ハ給料増減又ハ府外
旅行ノ事

一 左ノ件々ハ一般ノ成規ニ依リ上呈可致候

一 年報書ノ事

一 諸作業損益比較報告ノ事

一 作業收入額豫算内譯帳ノ事

一 營業資本請拂精算報告ノ事

一 作業收入精算帳ノ事
右件々相伺候也

